

教育講演会 『育ちを支える』

分散会記録

講師：前能登川町教育委員会
教育長 小川 脩哲氏

発行 P T A 教養部

あいさつに関して

実 態

高学年になるほど恥ずかしくてできない。
家ではできるのに外ではなかなかできない。
目で向き合っていくことができない。
子どもがあいさつをしても返せない大人がいる。
時間に追われ、あいさつよりも急がしてしまう。
あいさつの仕方によって、気分、雰囲気が悪くなる。
おかえりボランティアの方への「ありがとう」が言えない。

地域の人からできているとほめてもらえた。
低学年は元気良くできる。
日常のあいさつはできている。
うまく返せなくても、にこっと笑うことはできる。
他の地域と比べると良くできている方だと思える。

提案・推進策

- ・まずは家の中でのあいさつを充実させていく。
- ・あいさつに対して、必ず返事をするように心がける。(高学年になると返してくれる人にかしかない傾向が出てくる)
- ・あいさつは人からしてもらいものではなく自分から発信するもの。
- ・この1年でできるようにしていきたい。
- ・親自身から変わっていかないといけない。
- ・あいさつを交わすことで会話が広がる。
- ・恥ずかしがらずにできるようになるには、毎日の積み重ねが大切。
- ・外に出ることによってあいさつができる子が増えていくのではないかな。
- ・地域とかかわりを持ち、いい関係を作り上げていけば自然な行動としてあいさつができるようになる。
- ・我が子だけでなく、子どもが遊びに行った家の人もあいさつができていなかったらちゃんと注意するようにしていこう。
- ・寝るときには必ず声をかける。

その他子育てに関して

- ・子どもとの時間を少しでも多く持ちたい。
寝顔だけでなく休みの日、空いている時間は一緒に過ごす。
- ・お風呂で話をする(裸のつき合い)でコミュニケーションができる。
- ・自然の遊び場を作ると、親も子もみんなが遊べる。
- ・親が子どもにきつく言えなくなっている。
- ・親がしていることをそのまま子どもは真似る。やったことに対して親がしてたと言われる。
- ・本を読み聞かせている。
- ・1日1回はほめるようにしている。
- ・男親としての叱り方が難しい。
- ・子どもに親が教えられていることがある。
- ・子どもの視点に立って行動できていないことがある。

- ・子どもは親からいつ離れていくのだろうか。
- ・子どもが内緒話をするようになってきた。
- ・ゲームの占める割合が多くなってきた。自然の中での遊びがない。
- ・花の芽が出たときに、「会えたね」と言った子どもの感性に驚かされる。
- ・甘えてきたら、子どもを甘えさせてあげることは大事。「突き放す」とは、どこで、どこまで突き放せばいいのか難しい。
- ・社会のマナー、モラルはしっかりとしつけていく。

話し合ってみたいこと

- ・夕食が遅いとお風呂も遅くなる。食事の時間や就寝時刻について話し合ってみたい。
- ・遊びからの帰宅時間が家庭によってまちまち。どのようにしていくのがよいか。